

KVMスイッチ(4ポート)[PG-SB201], KVMスイッチ(8ポート)[PG-SB202]

(1) 概要

本装置は、1セットのモニター/キーボード/マウスを複数のサーバで共有するための切替器で、4台/8台のサーバを切り替えることができます。本装置をカスケード接続することにより、接続できるサーバ数を増やすことができ、最大構成は8ポートKVMスイッチ9台で64台のサーバを切り替えることができます。

4ポートKVMスイッチは、外付装置またはフラットディスプレイ[PG-R2DP1 等]への内蔵搭載として使用できるのに加え、ラックマウント変換機構「[PG-R1CK19]を別手配することによりカラーCRTディスプレイ-15あるいはカラー液晶ディスプレイ-15の横に縦置き設置することができます。

8ポートKVMスイッチは、外付装置または通常設置領域への搭載(ラック前面に操作パネル、後面に本体を取り付ける)に加え、スタンダードラックの縦置設置領域への搭載(操作パネルと本体はネジで固定される)が可能です。



図1 外観写真 (左:4ポート、右:8ポート)

(2) 特長

① サーバインタフェースとして、USBをサポート

従来のCRT/KB切替器[PG-SB104, PG-SB105]はサーバインタフェースとしてPS/2のみに対応していましたが、本装置ではPS/2に加えUSB接続もサポートしました。

オプションケーブルの選択のみで簡単にUSBサーバを接続できます。

PS/2インタフェースを持つサーバは、PS/2インタフェースのみをサポートし、USBインタフェースのみを持つサーバについてのみUSB接続をサポートします。

② フラットディスプレイ装置へ搭載可能(4ポートのみ)

4ポートKVMスイッチ1台をフラットディスプレイ[PG-R2DP2/R2DP1, PG-R1DP3]へ内蔵することが可能。(図4参照)

1Uのスペースで4台のサーバ切り替え機能及びコンソール機能が実現でき、ラックスペースを有効に使用できます。

またラックマウント変換機構「[PG-R1CK19]によりカラーCRTディスプレイ-15あるいはカラー液晶ディスプレイ-15の横に縦置き設置が可能です。(図5参照)

③ スタンダードラックの縦置設置領域への搭載(8ポートのみ)

スタンダードラックでは縦置設置領域に8ポートKVMスイッチを搭載することにより、通常のラックスペースを占有しないため、ラックの拡張性に貢献します。(図6参照)

④ ホットキー切り替え機能

操作パネルのセレクトスイッチによる接続サーバの切り替えに加え、キーボードで接続サーバを切り替えること(ホットキー切り替え)ができます。

ホットキー切り替え時は、OSD(On Screen Display)表示され接続サーバの電源投入状態が確認でき、上下カーソルキーまたは数字キーにより接続サーバを選択、切り替えることができます。

⑤ カスケード接続機能

本装置は、2段までのカスケード接続が可能ですので、将来のシステム規模拡大へ柔軟に対応することが可能です。

なお、4ポートKVMスイッチと8ポートKVMスイッチの混在接続も可能ですので、接続サーバの台数にあわせた最適な構成を構築できます。

また、従来モデルのCRT/KB切替器のうちPG-SB104及びPG-SB105との混在接続も可能です。

(ただしPG-SB103、GP5-SB102との混在接続はできません。)

(3) 仕様

名称		KVMスイッチ (4ポート)	KVMスイッチ (8ポート)	(参考: 従来モデル)
型名		PG-SB201	PG-SB202	PG-SB104, PG-SB105
接続台数		4台	8台	←
カスケード接続		4ポートKVMスイッチをマスタとした場合 最大構成はスレーブに4台の8ポートKVMスイッチを接続した場合で 32台のサーバが接続可能 8ポートKVMスイッチをマスタとした場合 最大構成はスレーブに8台の8ポートKVMスイッチを接続した場合で 64台のサーバが接続可能		←
サーバーとの インタフェース仕様		・PS/2キーボード/マウスインタフェース(OADG準拠) ・USB 1.1準拠(Low Speed対応、HIDコンポジットデバイス)		PS/2 キーボード/マウス インタフェース のみ
接続 コネクタ	共通 コンソール ポート	モニタ:VGA D-Sub15Pin メス ×1 キーボード:PS/2 ミニDIN 6Pinメス ×1 マウス:PS/2 ミニDIN 6Pinメス ×1		←
	※詳細は 図2を参照	サーバ ポート	VGA D-Sub15Pin メス ×4 (モニタ/キーボード/マウス共通)	VGA D-Sub15Pin メス ×8 (モニタ/キーボード/マウス共通)
ホットキー切り替え		ホットキーモード(キーボードでサーバを切り替える機能)は2種類あり、OSD(On Screen Display)表示が異なる。各モードに移行後、数字キー、ファンクションキー、 カーソルキーで選択し、Enterキーで決定、Escキーでキャンセルとなる。詳細は取 扱説明書をご確認ください。 1) ホットキーモード1 Ctrlキー+Altキー+Shiftキー同時押下またはScroll Lockキーを連続2回押下 することによりホットキーモードとなる。 2) ホットキーモード2 Ctrlキーを連続2回押下することによりホットキーモード2となる。 ※ホットキーモード中はキーボード(切り替えのためのキーを除く)及びマウスは使 用できない。		←
オートスキャン		ホットキーモード移行後、数字キーの0を押下することによりオートスキャンモードに 移行する。一定の周期で電源が投入されているサーバを自動的に切り替えることが 可能。切替周期は上下カーソルキーにより3/5/10(初期値)/20/40/60秒に変更可能。		←
表示およびボタン ※詳細は図3を参照		Power LED (×4) サーバの電源投入状態を示す。 Select LED (×4) 選択されているポート番号を示す。 Select ボタン (×4) 数字キーに対応するボタンを押下で1~4 のポートに接続されているサーバを選択す る。 Auto Scanボタン 本ボタンを押下でオートスキャンモードに なる。本ボタンを再度押下で表示している画 面を選択し通常状態となる。	Power LED (×8) サーバの電源投入状態を示す。 Select LED (×8) 選択されているポート番号を示す。 Select ボタン (×8) 数字キーに対応するボタンを押下で1~8の ポートに接続されているサーバを選択する。 Auto Scanボタン 本ボタンを押下でオートスキャンモードにな る。本ボタンを再度押下で表示している画面を 選択し通常状態となる。	←
質量		約1kg	約3kg	←
外形寸法 (W×D×H)		195 mm×104 mm×43 mm (Hにゴム足3.0mm含む)	437mm×210mm×45mm (Hにゴム足3.0mm含む)	←
入力電源		AC100V(ACアダプタ)、単相、 50/60Hz、平行2ピン	AC100V、単相、 50/60Hz、平行2ピンアース付き	←
消費電力		最大3.5W	最大5.0W	←
添付品		保証書 1部、取扱説明書 1部 ゴム足 4個(外付使用時) ACアダプタ 1セット	保証書 1部、取扱説明書 1部 ラック固定用ネジ 6個 ゴム足 4個(外付使用時) ACケーブル(2m) 1本	←
別途手配品		・KVMケーブル - PS/2接続用 : PG-CBLDP06 / CBLDP07 / CBLDP08 - USB接続用 : PG-CBLDP09 / CBLDP10 / CBLDP11 本装置とサーバを接続するために必要な専用接続ケーブルで長さは 1.8m/3m/5mがある。カスケード接続で本装置同士を接続する場合はPS/2用 1.8m(PG-CBLDP06)を使用すること。 ※カスケード接続の本装置分と接続サーバ台数分の合計数分のケーブルが必要。 例:本装置1台で4台のサーバを接続 → 4本(0+4)必要 本装置3台で9台のサーバを接続 → 11本(2+9)必要 ・ラックマウント変換機構[PG-R1CK19] (4ポートのみ) ※縦方向にラックの支柱へ取り付ける際に必要。CRT/KB格納テーブルを使用して いる場合は、カラーCRTディスプレイ等の横にある空きスペースに搭載可能。 1Uフラットディスプレイ[PG-R2DP2/R2DP1, PG-R1DP3]に搭載する際は不要。		・サーバ接続ケーブルは、 PS/2 接続の下記のみ。 PG-CBLDP02 PG-CBLDP03 PG-CBLDP04 に加えて PG-CBLDP06 PG-CBLDP07 PG-CBLDP08 も使用可能。 ・ラックマウント変換機構 は同左

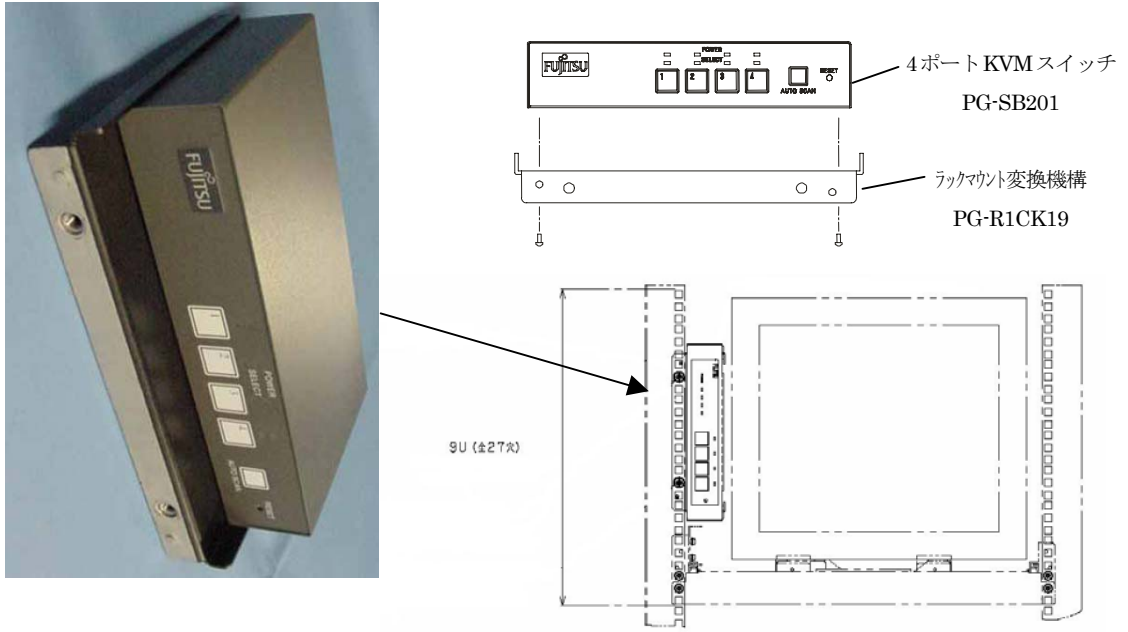


図5 ラックマウント変換機構取り付け(4ポートのみ)外観写真と取り付け概要

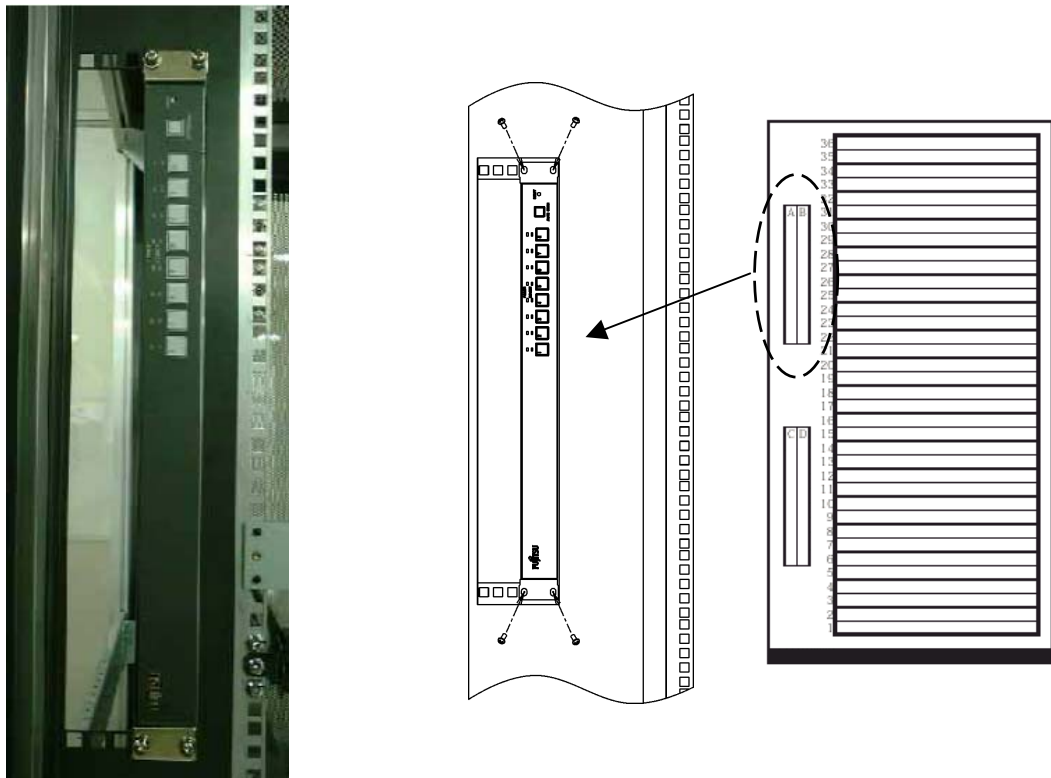


図6 ラック縦設置領域への搭載(8ポートのみ)写真と取り付け概要

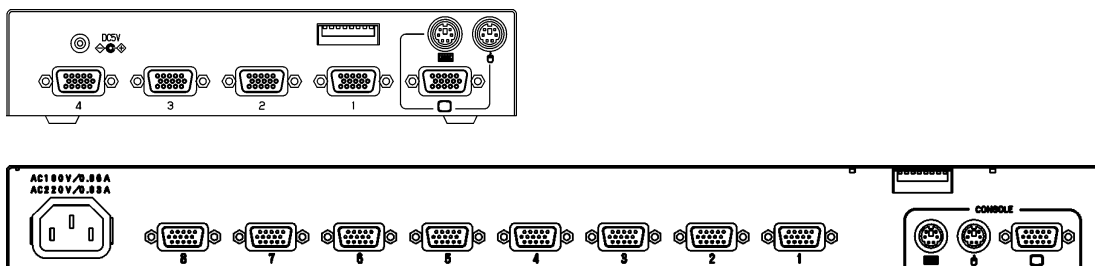


図2 装置背面図（上段：4ポート、下段：8ポート）

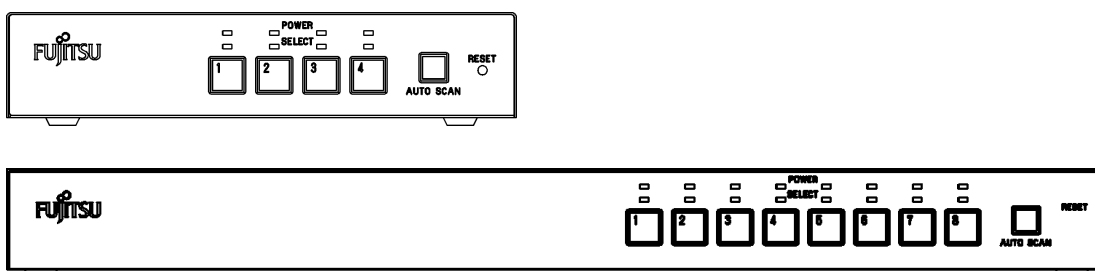


図3 装置正面図（上段：4ポート、下段：8ポート）



図4 本装置(4ポートのみ)をフラットディスプレイ[PG-R2DP1]に搭載時の外観写真
 ※PG-R2DP2、PG-R1DP3への搭載も同様。

(4) 接続形態

接続形態は、図7をご参照ください。

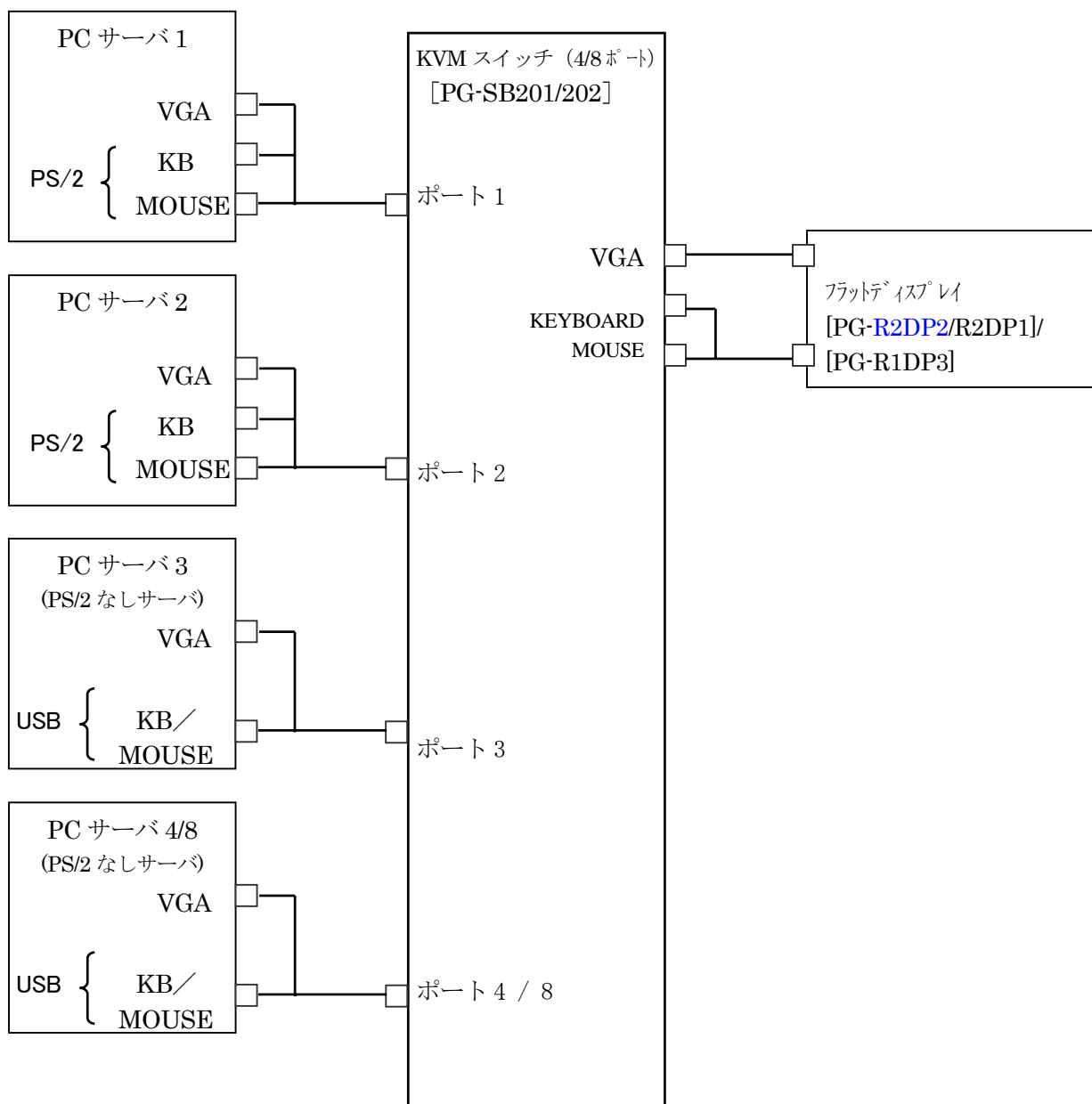


図7 接続図

(5) 留意事項

①PRIMERGY BX600/BX600 S2 シャーシの接続について

PRIMERGY BX600/BX600 S2 シャーシを接続する場合、4ポートKVMスイッチ(PG-SB201)と8ポートKVMスイッチ(PG-SB202)のカスケード接続はできません。カスケード接続する場合には、それぞれ4ポート同士、8ポート同士で接続してください。

②KVMスイッチおよびKVMスイッチに接続されている機器(フラットディスプレイ、モニタ、キーボード、マウス)交換について

KVMスイッチおよびKVMスイッチに接続されている機器(フラットディスプレイ、モニタ、キーボード、マウス)は、電源投入したままでは交換できません。交換を行う場合は、接続されている全てのサーバ(ブレードサーバが接続されている場合は、ブレードシャーシも含む)と全ての機器の電源を切断する必要がありますので、ご注意ください。

切断しない場合には、装置の破損、誤動作の原因となることがあります。

③サーバのUSBインタフェースの使用について

PS/2インタフェースを持つサーバは、PS/2インタフェースのみをサポートし、USBインタフェースのみを持つサーバについてのみUSB接続をサポートします。

以上